

科目名	行動分析学特論 I	担当教員	杉山尚子
科目属性	専門科目 B	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b>  教育における多くの問題は、基本的に教え手（教師など）と学び手（学生／生徒など）それぞれの行動の問題に還元できます。同時に、学び手が思うように成果をあげられない場合、解決のヒントは教え手の行動（教え方）の中に見つけることができます。この授業の目的は、心理学の一体系である行動分析学の中核的な概念である「行動随伴性」によって教え方を改善し、学びを促進する実践的な思考と技術を身につけることです。</p> <p>なお、教育とは学校教育に限定されるものではなく、看護、福祉、医療、スポーツ、動物のトレーニングなどの多くの場面で行われる、教え手と学び手の相互作用を指します。</p>			
<p><b>【授業計画】</b>  授業は、スクーリングと教材学習の両者、そして科目修得試験に合格して単位の認定となります。評価については、スクーリング内容が 25%、レポート課題が 25%、科目修得試験 50%の割合で総合しての評価となります。</p> <p>本科目の 15 回の授業計画は、以下のようになっています。</p> <p>第 1 回：行動分析的とは何か  第 2 回：行動の 2 つの種類  第 3 回：教育における行動分析的思考  第 4 回：教え手の教授行動を分析する  第 5 回：なぜ学びが促進されないのか？  第 6 回：行動随伴性という考え方  第 7 回：学びを促進する技法（1）環境の設定  第 8 回：学びを促進する技法（2）強化  第 9 回：学びを促進する技法（3）シェイピング  第 10 回：学びを促進する技法（4）課題分析とチェイニング  第 11 回：学びの度合いを測定する方法（1）直接測定  第 12 回：学びの度合いを測定する方法（2）間接的な所産の測定  第 13 回：学びを「見える化」する：グラフの描き方  第 14 回：教授法を評価する方法（実験計画法 1）：群間比較法  第 15 回：教授法を評価する方法（実験計画法 2）：個体内比較法</p>			
<p><b>【評価方法】</b>  授業は、スクーリングと教材学習の両者、そして科目修得試験に合格して単位の認定となります。評価については、スクーリング内容が 25%（事前課題含む）、レポート課題が 25%、科目修得試験 50%の割合で総合しての評価となります。</p>			
<p><b>【教科書】</b>  島宗 理 (2019) . 応用行動分析学：ヒューマンサービスを改善する行動科学. 新曜社. (ISBN: 978-4-7885-1622-9)</p>			

## 【参考図書】

以下の書は、行動分析学について網羅的に書かれた日本語で読める唯一の文献です。

杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・リチャード.W.マロット・マリア.E.マロット（1998）行動分析学入門, 産業図書. (ISBN-13 : 978-4782890301)

次にレベル、分野別に日本語で読めるもののみ紹介します。

### <初級>

Reynolds, G. S. (1975). A primer of operant conditioning. 浅野俊夫訳.(1978). オペラント心理学入門, サイエンス社. (ISBN-13: 978-4781900438)

島宗理（2014）. 使える行動分析学-じぶん実験のすすめ, ちくま新書. (ISBN-13: 978-4480067722)

島宗理（2019） 応用行動分析学：ヒューマンサービスを改善する科学 新曜社 (ISBN-13: 978-4788516229)

杉山尚子.(2005). 行動分析学入門-ヒトの行動の思いがけない理由, 集英社. (ISBN-13: 978-4087203073)

吉野智富美・吉野俊彦（2016）. プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック. 学苑社. (ISBN978-4-7614-0783-4)

### <中級>

Cooper, J. O., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007) Applied behavior analysis, 2nd ed. Pearson. (クーパー, J. O., ヘロン, T. E., ヒュワード, W. L. (2013). 応用行動分析学. 明石書店. (ISBN-13: 978-4750338262)

久保田 新（2003）. 臨床行動の基礎-人はなぜ心を求めるか-. 丸善. (ISBN-13: 978-4621072134)

小野浩一（2016）. 行動の基礎 改訂版. 培風館. (ISBN-13: 978-4563052478)

佐藤 方哉（1976）. 行動理論への招待. 大修館書店. (ISBN-13: 978-4469210569)

### <教育>

島宗理(2004). インストラクショナルデザイン—教師のためのルールブック. 米田出版. (ISBN-13: 978-4946553196)

### <発達>

Bijou, S. W. (1993) . Behavior analysis of child development. (園山繁樹他（訳）).(2003). 子どもの発達の行動分析, 新訂版. 二瓶社 (ISBN-13: 978-4861080074)

Schlinger, H. D. Behavior analytic view of child development. (園山繁樹他（訳）). 行動分析学から見た子どもの発達, 二瓶社. (ISBN-13: 978-4931199576)

### <言語>

浅野俊夫・山本淳一（編）（2001）. ことばと行動-言語の基礎から臨床まで. ブレーン出版. (ISBN-13: 978-4892426759)

### <看護>

杉山尚子（2016）行動する人間の理解. 長田久雄（編）看護学生のための心理学, 第10章. 医学書院. (ISBN-13: 978-4260021876)

### <リハビリテーション>

辻下守弘・小林和彦（編）（2006）. リハビリテーションのための行動分析学入門. 医歯薬出版. (ISBN-13: 978-4263212974)

山崎裕司・山本淳一（編）. (2012) . リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ—応用行動分析で運動療法とADL訓練は変わる, 第2版. 三輪書店. (ISBN-13: 978-4895904070)